

平和を実現する人たちは  
幸いである。  
その人たちは  
神の子と呼ばれる。  
マタイによる福音書5章9節

## 平和聖日

8月第1日曜日は、平和聖日として、平和について考え、過去の戦争の過ちを忘れないように、風化されないようにと覚えてずっと礼拝をささげて参りました。今年も去る8月4日(第1主日)平和聖日として礼拝をおさげいたしました。

今年は、特別に前立教女学院中学校・高等学校 理事長・校長 平塚敬一先生よりメッセージをいただき、キリストによる平和を祈りました。

## イエスの生き方に倣って

『心の壁』を取り除こう 平塚 敬一先生

【ダニエル書12章3-13節】



5月29日はどういいう日かご存知でしょうか。横浜大空襲があった日で黄金町駅付近の惨状については、いろいろと語り伝えられています。黄金町駅の構内には数十人を積み上げたように折り重なった焼死者の山。さらに関東学院の三春台に向かう道にも累々と焼死体が折り重なっていたそうです。関東学院には雨あられのように焼夷弾が投下され、校庭一面に焼夷弾が突き刺さったそうです。横浜大空襲のように全国の主要都市にアメリカ軍の無差別爆撃が始まるようになり、小学生を田舎に疎開させることになりました。1944年6月30日、「学童疎開促進要綱」が発表されると、東京や横浜などの小学3年以上の児童が学校ごとに集団疎開が行なわれるようになりました。『八月の友だち』という詩が私が勤務していた関東学院におられた大石規子さんという国語の教師が書かれたものです。大石先生は、間門小学校5年生の時、両親と離れた箱根の奈良屋という旅館で過ごしたそうです。「8月 あなたは幸せですか 私の8月は死合わせです 思い出してしまからずです あの8月に 生きていたことを 60年 61年と だんだん遠くなるのに だんだん近くなるのです」と、時間が経つにつれてあの8月の記憶が鮮明になってくることあります。この詩集の「あとがき」の中で大石先生は、戦争で死んだしまった友だちの「忘れないう。ワスレナイデネ。私の代わりに何してくれたい」という声が聞こえると語っておられます。

るささまざまな差別や偏見、またいじめなどは、自分たちの仲間とそうでない者たちとの間に壁を作るから生じてきます。そして、私たちが、いつの間にかこの壁に取り囲まれていても平気な顔で日々を過ごしているのです。人と人との間に張りつめた氷が解けず、人と人との間に張り巡らされた「心の壁」は取り除けなくなってしまうのです。

埋まらない南北の深い壁、大韓民国と朝鮮民主主義共和国の間に横たわる壁は、とても高く、民族統一という言葉も遙かに遠いように思えます。この南北の壁は、明治以降の日本の武力による朝鮮侵略が原因であります。明治政府は、欧米列強に対抗するために富国強兵というスローガンのもとに朝鮮の領土を獲得することに必死となります。とうとう1910(明治43)年、日本は朝鮮半島を占領、植民地として、創氏改名という強制的に日本名を名乗らせることなど朝鮮人の尊厳を深く傷つけました。

「季節は過ぎていく天には 秋でいっぱい満ちています。わたしは何の心配もなく 秋の中の星々を数えられそうです。胸の中に ひとつ ふたつと 刻まれる星を 今すべて数えきれないのは すぐに朝が来るからで 明日の夜が残っているからで まだわたしの青春が尽きていないからです」。これは尹東柱という人の「星を数える夜」という詩の冒頭部分です。尹東柱は1917(大正6)年、中国北東部遼寧省部分(現在の中国吉林省)で生まれ、1945(昭和20)年、福岡刑務所で獄死したキリスト者です。この詩は、1941年11月5日に書かれています。当時、尹東柱は、日本統治下の朝鮮、現在の韓国のソウルにある延世大学の学生でありました。この詩が書かれた一か月後1941年12月8日には、日本軍による真珠湾攻撃によって太平洋戦争が始まります。戦時下のため、尹東柱は繰り上げ卒業で延世大学を卒業します。尹東柱は、1942年春、日本留学を決意し立教大学に入学しますが、軍事教練を拒否したため配属将校から睨まれ、圧迫を受けるようになり、その年の秋、尹東柱は同志社大学に転入します。しかし、翌年の7月14日、夏休みの前に、尹東柱は下宿で京都下鴨署の警察官に逮捕されます。治安維持法違反の容疑、日本国家を転覆させる意図をもった活動していたというのです。ただ韓国語の詩を書いただけで罪とされたのです。尹東柱は京都地方裁判所で懲役2年の判決を受け、福岡刑務所に収監されます。そして、1945年2月26日、拷問を奪われ、言葉も奪われ、無実の罪で自由を奪われて殺されたのです。

「星を数える夜」は、「けれども冬が過ぎて わたしの星にも春が来れば 墓の上に青い芝草が萌え出るように わたしの名まえの字がうずめられた丘の上にも 誇らしく草が生い繁るでしょう」と結んでいます。23歳の尹東柱は既に自分の死を予感し、決意し、覚悟していたかのようには思われません。尹東柱が日本留学の時、日本名に変えなくては玄界灘を渡ることはできず、父親は息子の日本渡航のために「尹」の代わりに「平沼」と渡航証明書に書きました。親子にとつて「尹」を「平沼」に変えることはどれほど辛い、屈辱的なことであつたことでしょうか。

遠い昔、ダニエルという預言者がいました。「こう聞いてもわたしには理解できなかったもので、尋ねた。『主よ、これらのことの意味はどうか教えてください。』彼は答えた。『ダニエルよ、もう行きなさい。終りの時までこれらの事は秘められ、封じられている。多くの者は清められ、白くされ、練られる。逆らう者はなお逆らう。終りまでお前の道を行き、慰みに入りなさい。時の終わりにあたり、お前は定められている運命に従つて、お前は立ち上がるであろう』」(12章8-10、13節)と。この預言者の言葉は尹東柱が「星を数える夜」を書いた頃に聞いた預言の声であつたかも知れません。あの詩を書いた尹東柱は、72年を経た今、立ち上がって南北朝鮮の人々に、そして私たちに語りかけているのです。

争い、策略、力が支配する現代社会。最も小さく、弱い人々が苦しむ世界。それが21世紀の今日、私たちが直面している大きな壁であります。そのような大きな壁は何千年にもわたる歴史の中で世界各地に当たり前のようにならぬことを阻んできました。2000年前も現代と同じような平和を阻む大きな壁がありました。そのような中で平和と和解をもたらすためにイエスが誕生し、この地上で33年の短い生涯を過ごされました。聖書によれば夜が暗かつただけでなく、世の中も暗かつたとあります。パレスチナの小さなベツレヘムという町はローマの支配下であり、その地の人々は何重もの重圧に苦しんでいました。重圧は外からだけでなく、内部からも重くのしかかっていた。人々は皆、自分のことしか考えない冷たい空気が社会に満ち満ちていました。何か、現代の私たちの周囲と似たような状況にあつたようです。そのような中でイエスは、33年の生涯を通して常に最も小さく、弱い人々の傍らで、差別や偏見という壁を取り除こうとされました。しかし、イエスは政治的な指導者、宗教的な権力者を夢見た大勢の人々は、自分たちの手でローマにイエスを売り渡しました。イエスは、ローマの法廷で裁かれ、無残な十字架の刑罰で殺されました。イエスは超人的な力を発揮してくれようと思つて人々の期待を裏切つて無力な姿で息絶えたのです。けれどもイエスの誕生とその後の生涯が歴史に大きな意味を持つてくるのには時間ばかりではありませんでした。イエスのあの無力な姿に、無抵抗のままに息絶えたあの姿に、全く別の味を見出した人々がいたのです。イエスの無力な姿に「あれはどういうことなのだろう」と受け止めた人たちがいたのです。彼らは、この世に渦巻く争い、対立、憎しみや人と人を隔てる壁の連鎖を断ち切つたイエスの姿を見たのです。このようなイエスを理解した人々によつて、イエスの生き方は受け継がれて、2000年の時が過ぎました。まさに現代、私たちの心は暗闇に閉ざされ、将来の見えない厚い壁に阻まれていきます。そうであるからこそ、イエスが宗教や民族の厚い壁を取り除こうとされた生き方に倣つて生きることができないでしょうか。私たちもまたどれほどの困難な壁があつたとしても、自分に託された役割が何であるかを求め、確かめ、それを引き受けて、終りまで自分の道を行こう」といふ言葉に倣つていこうではありませんか。

聖書の言葉

平和を実現する人たちは  
幸いである。  
その人たちは  
神の子と呼ばれる。  
マタイによる福音書5章9節

# シャロームタイムズ

2013年8月11日（日）発行

宗教法人

野毛山キリストの教会

〒220-0042 横浜市西区老松町30番地

## 今年の絵本

ナガサキの原爆について描かれた

葉 祥明さんの「あの夏の日」

戦争、そして原子爆弾の犠牲となられたすべての人たちへ…祈りをこめて…というはじまりで、酒井大志兄によって朗読されました。

絵本を通して、葉祥明さんの熱いメッセージが伝わってきました。

戦争には、人間の知るすべての悪があります。そして、核兵器は、人類がそれまで知らなかった、想像を絶する苦しみと悲惨さと恐怖をもたらします。科学技術の頂点のひとつでもある核兵器は、いったん使用されると、あらゆるものが破壊され、人びとの生命も、生活も、家族の絆も、すべて失われてしまいます。核兵器を廃絶し、戦争は二度としない、平和が一番大切、という気持ちを持ち続けることが、二度の被爆体験を持つ日本にとって、世界における大切な役割ではないでしょうか。

今、生きている私たちは、美しい自然と、平和な地球を次の世代に、手渡す責任があります。荒れ果てた世界に住む未来の子どもたちから、「どうして？あの時、どうにかできなかったの？」と言われないように…

葉 祥明



## 広島（ヒロシマ）

1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分。  
原子爆弾トルボーイは、第33代アメリカ合衆国大統領ハリー・S・トルーマンの原子爆弾投下の大統領命令を受けたB-29（エノラ・ゲイ）によって投下されました。

この1年に亡くなった方 5859人  
計286818人

## 長崎（ナガサキ）

広島の3日後の1945年8月9日午前11時2分、B-29（ボックスカー）が長崎市に原子爆弾ファットマンを投下しました。

この1年に亡くなった方 3404人  
計162083人



## きたがわてっさん 平和コンサート

きたがわてっさんの素晴らしい歌を通しての平和のメッセージに心を打たれました。私たちにできることは小さくても、一歩一歩進んでいくことの大切さを、改めて感じました。



## ヒロシマの有る国で

山本さとし 詩・曲

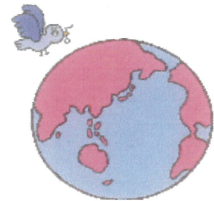
八月の青空に 今もこだまするのは  
若き詩人の叫び 遠き被爆者の声  
あなたに感じますか 手のひらの温もりが  
人のくやし涙が 生き続ける苦しみが  
わたしの国とかの国の 人の生命は同じ  
このあおい大地の上で 同じ生を得たのに  
ヒロシマの有る国で  
しなければならぬことは  
とるも戦の火種を消すことだろう

かの南の国では 大国がのしかかり  
寡黙な少年らは 重い鎧に身をやく  
やせた母の胸に 乳飲み子が泣きさけび  
はだしではだかのまま  
逃げまどう子どもたち  
故国の土を踏むことも  
家族と暮らすことも  
許されない戦争が  
なぜに今も起こる  
ヒロシマの有る国で  
しなければならぬことは  
とるも戦の火種を消すことだろう

## 日本国憲法 第9条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の対戦権は、これを認めない。



「世界がぜんたい幸福にならないうちは、  
個人の幸福はあり得ない」 宮沢賢治

## キリストの平和

キリストの平和が  
わたしたちの心のすみずみにまで  
ゆきわたりますように  
キリストの光が  
わたしたちの心のすみずみにまで  
ゆきわたりますように  
キリストの力が  
わたしたちの心のすみずみにまで  
ゆきわたりますように  
キリストのいのちが  
わたしたちの心のすみずみにまで  
ゆきわたりますように  
キリストの赦しが  
わたしたちの心のすみずみにまで  
ゆきわたりますように  
キリストの香りが  
わたしたちの心のすみずみにまで  
ゆきわたりますように

シャローム

## 広島平和式典 子ども代表

平和への誓い

今でも、逃げていくときに見た光景をはっきり覚えてい  
る。当時3歳だった祖母の言葉に驚き、恐くなりました。  
「行ってきます」とお出かけた家族、「ただいま」と当たり  
前に帰ってくることを信じていた。でも帰ってこなかった。  
それを聞いたとき、涙が出て、震えが止まりませんでした。  
68年前の今日、わたしたちのまち広島は、原子爆弾によ  
って破壊されました。体に傷を負うだけでなく、心までも深  
く傷つけ、消えることなく、多くの人々を苦しめています。  
今、わたしたちはその広島に生きています。原爆を生きて  
ぬき、命のバトンをつないで。命とともに、つなぎたいも  
のがあります。だから、あの日から目をそむけません。もつ  
と、知りたいのです。被爆の事実を、被爆者の思いを。もつ  
と、伝えたいのです。世界の人々に、未来に。  
平和とは、安心して生活できること。平和とは、一人一  
人が輝いていること。平和とは、みんなが幸せを感じること。  
平和は、わたしたち自らがつくりだすものです。そのた  
めに、友達や家族など、身近にいる人に感謝の気持ちを伝  
えます。多くの人と話し合う中で、いろいろな考えがある  
ことを学びます。スポーツや音楽など、自分の得意なこと  
を通して世界の人々と交流します。  
方法は違っていてもいいのです。大切なのは、わたした  
ち一人一人の行動なのです。さあ、一緒に平和をつくりま  
しょう。大切なバトンをつなぐために。

子ども代表

2013年8月6日

広島市立吉島東小学校6年 竹内駿治  
広島市立田口小学校6年 中森柚子

